

飲酒に対する海外派遣の影響

明石信爾・森 忠繁・松田 昭

(中国短大)

佐々木武史 (京府医大・衛生・助教授)

額田 粲 (東邦大・医・衛生・教授)

1. はじめに

アルコールが職業病，労働災害に与える影響は大きく，疾病，欠勤，事故など産業医学上「酒害」の占める位置は重大で飲酒の実態について多くの調査結果が報告されている。^{1)~7)}「職場における飲酒」は病因としてのアルコール飲料，宿主としての飲酒者，環境としての各種要因について検討しなければならない。

某重工ではビルマおよび東パキスタンに日本人男子技術者を派遣している。著者らの研究班の一人が昭和45年夏，ビルマおよびパキスタンにおいて現地派遣者の健康診断をおこなった際，海外派遣という特殊な環境条件での飲酒の状態を調査したのでその概略を報告する。

2. 調査方法

本調査対象の海外派遣者は技術的必要条件と健康診断によって選考され，酒に対して特別の考慮は払われていない集団である。

調査は現地での健康診断時，問診の際にアンケート用紙を渡して記入せしめた。アンケートは「アルコール飲料の社会医学的研究（文部省科学研究費総合研究A）」の予備調査に用いたものを，問題飲酒，早期症状，飲酒の価値などに重点をおいて改訂したものである。^{8)~9)}

アンケート項目のうち，飲酒頻度，飲酒量（晩酌量），飲酒の価値づけについての質問は現地における状態で回答せしめた。回答者の中から欠項の多い不完全なものを除いた80名について集計した。

3. 派遣地の環境

本調査をおこなった派遣地は，中部ビルマ，イラワジ河中流の砂漠地帯にあるサレー附近，および，ベンガル湾にそそぐカルナフリ河々口にある東パキスタンの港町，チッタゴンの近郊である。

両地方の気候的条件は、乾期雨期ともに日中の気温は約30°C、夜間は約15°Cである。湿度はサレー附近とチッタゴン近郊で異なり、前者では乾期約40%、雨期60~70%であるのに対し、後者は乾期60~70%、雨期80~90%という高湿である。

労働時間はビルマでは週39時間（7時~16時30分、昼休み2時間30分、土曜日は午前中勤務）、実働7時間である。東パキスタンでは週48時間（8時~17時、昼休み1時間）実働8時間である。いずれも残業はほとんどなく、日曜日、祭日は休業する。ビルマの昼休み2時間半という休憩時間である。ビルマ派遣当初、派遣者の体重減少が著しく、半年間に約3Kgの減少がみられ、また、疲労感が著しく、2~3時間の午睡をとることにより、体重減少が防止され、体調が好転した事実より、昼の休憩時間を2時間半としたものである。派遣者の業務内容は現場作業の監督である。

住居はビルマでは木造瓦ぶき1戸建（1戸当り3人、1人1部屋使用）、パキスタンでは軽量鉄骨造りのアパートである。食事はいずれも共同食堂を利用した、食事内容は日本料理を主体としたもので、醤油、味噌を除く他の材料は現地で調達している。

主食となる米は「東南米」で、パキスタンでは日本の技術指導による日本株の現地米を50%混合したものをを用いたので、ビルマの米よりはるかに日本人の好みに適した味である。現地調達の食料（野菜、肉、魚など）の品質は両地でありあまり差が見られず、いずれも好ましいものであるということとはできない。そのため、本国より輸送した各種の缶詰類がよく使用されている。なお、ビルマでは、衣類、米、塩、砂糖、酒は統制品でマーケットでは販売されていない。しかしビルマでは、マンダレー・ビール、ラム酒（アルコール濃度60%）が配給制で現地人より比較的容易に入手できる。日本酒、ジョニウオーカー赤が時々手に入る。マンダレービールはまずいので平素はラム酒を水割りにして飲んでいる。パキスタンでは正規に酒類は市販されていないが、ジョニウオーカー赤が比較的容易に入手でき、おもにその水割りが飲まれている。時に持込まれた日本酒、朝日ビールが飲まれている。

酒は魚、肉の缶詰、夕食の副食を肴として日本にいるときの晩酌のようにして飲まれている。夕食後飲むときは酒の肴をあまりとっていない。

サレー近郊はまったくの田舎であるが、チッタゴンは港町で喫茶店、バー、レストラン等の飲食店や遊戯場がある。娯楽としては、いずれも、テニス、ゴルフ、麻雀等ができるにすぎない。しかしチッタゴンには適当に遊ぶところもある。

4. 調査成績

4.1. 回答者の属性

表1に示すように、年齢は20才台が約半数を占めており、平均年齢は31.8才である。パキスタンに派遣された者に年の若い者が多い（ $\alpha < 0.05$ ）。派遣職種は技術者29%、技術系職員66%、事務系職員2%である。派遣期間は平均6カ月、最長1年6カ月、最短3週間である。学歴は中卒20%。高校卒56%。大学卒23%である。婚姻は未婚36%、既婚56%であり、ビルマ派遣者に未婚者が少ない（ $\alpha < 0.01$ ）。同胞順位は長子20%、末子26%、中間子54%である。趣味は屋外（運動、スポーツなど）39%、室内（文化）7%、両方24%

表1 ビルマ派遣員とパキスタン派遣員との比較

		ビルマ	パキスタン	両者	N
年 齢	20 — 29	36.1%	59.1%	48.8%	39
	30 — 39	41.7	31.8	36.2	29
	40 —	22.2	9.1	15.0	12
職 種	専門技術者	25.0%	31.8%	28.8%	23
	技術系職員	72.0	66.7	68.7	55
	事務系職員	2.8	2.3	2.5	2
婚 姻	未 婚	13.9%	54.5%	36.3%	29
	既 婚	72.2	43.2	56.2	45
学 歴	中 卒	11.1%	27.3%	20.0%	16
	中高 卒	66.7	47.7	56.2	45
	大 卒	22.2	22.7	22.5	18
同胞順位	長 子	22.2%	18.2%	20.0%	16
	末 子	22.2	29.5	26.3	21
	中 間 子	55.6	52.3	53.7	43
趣 味	屋 内	2.8%	11.4%	7.5%	6
	ス ポ ツ	33.3	43.1	38.7	31
	両 方	30.6	18.2	23.8	19
	な し	33.3	27.3	30.0	24
家の宗教	仏 教	77.8%	77.3%	77.4%	62
	そ の 他	16.7	11.3	13.8	11
	な し	5.6	9.1	7.5	6
自分の宗教	仏 教	27.8%	40.9%	35.0%	28
	そ の 他	27.8	22.8	25.1	20
	な し	44.4	36.4	39.9	32
在外期間	平 均	23.7W	20.9W	22.1W	80
	最 長	68	56	68	
	最 短	4	3	3	
在外中の飲酒頻度	ほとんど飲まない	5.6%	27.3%	17.4%	14
	週1回以上飲む	30.5	56.8	45.0	36
	毎日飲む	61.1	11.4	33.8	27
在外中の晩酌量	～ 1合	36.1%	45.5%	41.3%	33
	1 ～ 2 "	33.3	27.3	30.0	24
	2 ～ 3 "	16.7	11.4	13.8	11
	3 ～ 4 "	0	0	0	0
	4 ～ 5 "	2.8	6.8	5.0	4
	5 ～	0	0	0	0
	平 均	1.4合	1.4合	1.4合	

日本での宴会 における飲酒 量	～ 1合	8.3%	11.4%	10.0%	8
	1 ～ 2 "	8.3	11.4	10.0	8
	2 ～ 3 "	33.3	34.1	33.8	27
	3 ～ 4 "	16.7	9.0	12.5	10
	4 ～ 5 "	19.4	20.4	20.0	16
	5 ～	13.9	11.4	12.5	10
平	均	3.4合	3.3合	3.3合	
日本でももに 飲む酒の種類	日 本 酒	36.7%	30.1%	33.0%	44
	ビ ー ル	48.3	43.8	45.9	61
	洋 酒	15.0	26.0	21.0	28
合 計		100.0%	100.0%	100.0%	
N		36	44	80	

註) 回答のないものは表よりはおいている ※ $\alpha < 0.05$, ** $\alpha < 0.01$

%, なし30%である。家の宗教は仏教77%, その他14%, なし8%であるのに対し, 自分の宗教では仏教35%と減り, なしが40%に, その他25%となっている。

4.2. 飲酒頻度

飲酒頻度は現地における場合についてのものである。表1のように「毎日飲む者」34%, 「週1回以上飲む者」45%, 「ほとんど飲まない者」17%で, 飲酒する者が多い。ビルマでは「毎日飲む者」が多く, パキスタンでは「週1回以上飲む者」と「ほとんど飲まない者」が多い ($\alpha < 0.01$)。

現地での飲酒頻度を更に分析すると表2のようになる。年齢別では, 高年齢ほど飲酒頻度の率が高くなる。職種では技術系職員において専門技術者より飲酒頻度が少ない。婚姻別では, 未婚者に「週1回以上飲む者」が多く, 既婚者に「毎日飲む者」が多い ($\alpha < 0.01$)。同胞順位では, 長子に「ほとんど飲まない者」が少なく, 末子には「毎日飲む者」が少ないという傾向がある。

表2 在外中の飲酒頻度

		ほとんど 飲まない	週1回以 上飲む	毎日飲む	回答なし	N
年 齢	20 ～ 29	23.1%	53.8%	18.0%	5.1%	39
	30 ～ 39	17.2	41.4	41.4	0	29
	40 ～	0	25.0	66.7	8.3	12
職 種	専門技術者	8.7%	43.5%	43.5%	4.3%	23
	技術系職員	21.8	45.5	29.1	3.6	55
	事務系職員	0	50.0	50.0	0	2
婚 姻	未 婚	24.1%	62.1%	10.3%	3.5%	29
	既 婚	15.6	35.6	46.7	2.1	45

学 歴	中 卒	12.5%	50.0%	31.3%	6.2%	16
	高 卒	22.2	40.0	37.8	0	45
	大 卒	11.1	55.6	27.8	5.5	18
同 胞 順 位	長 子	6.3%	50.0%	43.7%	0 %	16
	末 子	19.0	52.4	14.3	14.3	21
	中 間 子	20.9	39.5	39.5	0	43
趣 味	屋 内	22.2%	38.7%	35.5%	3.6%	31
	ス ポ ー ツ	0	83.3	16.7	0	6
	両 方	21.1	36.8	42.1	0	19
	な し	12.5	50.0	29.2	8.3	24
家 の 宗 教	仏 教	17.7%	50.0%	29.0%	3.3%	62
	そ の 他	18.2	18.2	54.5	9.1	11
	な し	16.7	50.0	33.3	0	6
自 分 の 宗 教	仏 教	21.4%	50.0%	25.0%	3.6%	28
	そ の 他	5.0	50.0	40.0	5.0	20
	な し	21.9	37.5	37.5	3.1	32
飲 酒 開 始 年 齢	～ 19	17.6%	54.9%	23.5%	4.0%	51
	20 ～ 25	17.9	28.6	50.0	3.5	28
	30 ～	0	0	100.0	0	1
合 計		17.4%	45.0%	33.8%	3.8%	
N		14	36	27	3	80

註) ※※ $\alpha < 0.01$

4.3. 飲 酒 量

現地における飲酒量は、我国でいう晩酌量である。¹⁰⁾現地で飲む酒はラム酒やジョニウォーカーなどの水割りが主であるので、日本で飲んでいる晩酌量を考慮して日本酒に換算してあらわしている。表1に示すように現地での飲酒量平均は1.4合で、1合未満41%、1～2合30%で、合わせて約3/4をしめている。日本にいるときの宴会での平均飲酒量は3.2合で2～3合飲む者が34%となり、3合未満の者は54%となっている。5合以上飲む者13%いる。現地における飲酒量および日本での宴会における飲酒量はビルマ派遣者とパキスタン派遣者との間には差が認められない。

表3に種々の項目別にみた飲酒量を示している。学歴別では中卒者に飲酒量が多く、毎日飲む者が多い傾向がみられる、自分の宗教では、仏教以外の者に飲酒量が多い。飲む際の食べ物では「おかずだけ食べる者、おむすびを食べる者」に飲酒量が多い傾向にある。また、「料理は酒を飲むために食べる」という者と、「料理をおいしく食べるために飲む」という者との間に飲酒量の差はみられない。

4.4. 酒の種類

海外派遣者が日本にいるときおもに飲んでいた酒は、ビール46%、日本酒33%、洋酒21

表3 飲酒量（平均値）

				在外中の晩酌量	日本で宴会における飲酒量	N
年 齢	20 ~ 29			1.3 合	3.4 合	39
	30 ~ 40			1.1	2.7	29
	40 ~			1.5	3.1	12
職 種	専 門 技 術 者			1.9 合	3.0 合	23
	技 術 系 職 員			1.0	2.8	55
	事 務 系 職 員			2.5	5.0	2
婚 姻	既 未		婚 婚	1.4 合	3.7 合	29
				1.3	3.1	45
学 歴	中 高		卒 卒	1.8 合	4.1 合	16
	大		卒 卒	1.1	3.5	45
			大 卒	1.1	2.4	18
同 胞 順 位	長 末		子 子	1.8 合	3.9 合	16
			子 子	1.1	2.9	21
	中 間		子	1.3	3.4	43
趣 味	屋 内		ス ポ ー ツ	1.7 合	3.8 合	16
	両 方		な し	1.3	3.8	31
				0.9	2.9	19
				1.5	3.1	24
家 の 宗 教	仏 教		の 他	1.3 合	3.2 合	62
	そ の		し	1.7	3.5	11
	な し			1.5	4.0	6
自 分 の 宗 教	仏 教		の 他	1.3 合	3.1 合	28
	そ の		し	1.7	3.8	20
	な し			1.2	3.2	32
在 外 中 の 飲 酒 頻 度	ほ と ん ど 飲 ま な い			0.7 合	1.7 合	14
	週 1 回 以 上 飲 む			1.2	3.4	36
	毎 日 飲 む			1.8	4.0	27
飲 酒 開 始 年 齢	~ 19			1.4 合	3.6 合	51
	20 ~ 25			1.3	3.0	28
	30 ~			0.5	1.5	1
日 本 で の お も に 飲 む 場 所	家 庭		の 家	1.2 合	3.1 合	43
	友 人 の		飲 み 屋	1.6	3.9	17
				1.4	3.5	56
飲 む 雰 囲 気	静 かに 飲 む			1.2 合	2.2 合	19
	賑 や かに 飲 む			1.2	3.1	10
	き ま っ て い な い			1.4	3.7	51
酒 を う ま く 飲 む た め に 料 理 を 着 に す る	は い		い	1.4 合	3.5 合	69
	い い		え	0.8	2.8	4

料理をおいしく食べるために酒を飲む	は	い	1.5 合	3.7 合	37	
	い	い	え	0.8	3.1	25
飲酒中、飲酒後に食物をとる	つ	ま	み	0.9 合	4.5 合	8
	料		理	1.6	4.5	29
	料	理	と	1.2	3.4	35
	お	に	ぎ	1.5	4.8	6
日本でおもに飲む酒の種類	日	本	酒	1.5 合	3.9 合	44
	ビ	ー	ル	1.1	3.4	61
	洋		酒	1.7	4.0	28
計			1.4 合	3.3 合	80	

註) 回答のないものは表よりはぶいている。

%であり、ビルマ派遣者とパキスタン派遣者との間に差を認めない。現地での飲酒量は本国でおもにビールを飲む者に少なく洋酒をおもに飲む者に多い(表3)。

4.5. 酒と料理、食物との関係

表4 酒と料理との関係

	料理をおいしくするために酒を飲む					計	
	は	い	い	い	え		判らない
酒をうまく飲むために料理を肴にする	は	い	21	34	10	4	69
	い	い	え	2	2		4
	判らない	2			5		7
	計	25	36	15	4	80	

表4は酒と料理との関係を示したものである。「料理は酒の肴」として酒本位の者は34名、43%に対して、「食欲増進として料理をおいしくさせるために酒を飲む」と答えた者は2名、3%である。

表5は飲酒の際とその前後の食物について示したものである。副食を食べる36%、副食とご飯を食べる44%で、合わせて80%が食事をとっている。これに対して、「つき出し」だけの者が10%、「おむすび」だけを後で食べる者が7%いる。

年齢別では若年ほど「つき出し」だけ、「おむすび」だけが多くなる。学歴では中卒者に「つき出し」だけが多くなり、副食と主食が少なくなる傾向がある。婚姻関係では未婚者に「つき出し」だけが多く、副食と主食が少ない($\alpha < 0.01$)。飲酒頻度と食事との間

表5 飲酒中、飲酒後の食物

		つまみ	料理	料理と飯	料理とおにぎり	おにぎり	N
年 齢	20 ～ 29	15.4%	38.5%	33.3%	0%	12.8%	39
	30 ～ 39	3.4	34.5	62.1	0	0	29
	40 ～	8.3	33.3	33.3	8.3	16.7	12
職 種	専 門 技 術 者	8.7%	30.4%	47.8%	13.0%	0 %	23
	技 術 系 職 員	9.1	40.0	43.6	5.5	1.8	55
	事 務 系 職 員	50.0	0	0	0	50.0	2
婚 姻 [※]	未 婚	24.1%	37.9%	31.0%	6.9%	0 %	29
	既 婚	2.2	35.6	51.0	6.7	4.4	45
学 歴	中 卒	18.8%	43.8%	18.8%	12.5%	6.3%	16
	高 卒	11.1	33.3	44.4	8.9	2.2	45
	大 卒	5.6	33.3	61.1	0	0	18
同胞順位	長 子	12.5%	25.0%	62.5%	0 %	0 %	16
	末 子	14.3	38.1	38.1	9.5	0	21
	中 間 子	7.0	39.5	39.5	9.3	4.7	43
趣 味	屋 内	16.7%	33.3%	50.0%	0 %	0 %	6
	ス ポ ツ	12.9	32.3	32.3	16.1	6.5	31
	両 方	0	31.6	68.4	0	0	19
	な し	12.5	45.8	37.5	4.2	0	24
在外中の飲酒頻度	ほとんど飲まない	7.1%	42.9%	42.9%	7.1%	0 %	14
	週1回以上飲む	13.9	36.1	41.7	5.6	2.8	36
	毎日飲む	7.4	29.6	48.1	11.1	3.7	27
在外中の晩酌量	～ 1合	12.1%	24.2%	57.6%	6.1%	0 %	33
	1 ～ 2	12.5	50.0	29.2	8.3	0	24
	2 ～ 3	0	36.4	38.4	18.2	7.1	11
	3 ～ 4	0	0	0	0	0	0
	4 ～ 5	0	50.0	25.0	0	25.0	4
日本での宴会における飲酒量	～ 1合	0 %	37.5%	62.5%	0 %	0 %	8
	1 ～ 2	12.5	12.5	62.5	0	12.5	8
	2 ～ 3	7.4	40.7	51.9	0	0	27
	3 ～ 4	10.0	60.0	30.0	0	0	10
	4 ～ 5	12.5	18.8	37.5	31.3	0	16
	5 ～	20.0	40.0	20.0	10.0	10.0	10
計		10.0%	36.2%	43.8%	2.5%	7.5%	100%
N		8	29	35	2	6	80

註) 回答のないものは表よりはぶいている。 ※ $\alpha < 0.05$

には特別の関連がみられない。飲酒量1合以下の者には主食と副食物をとる者が多い。宴会での飲酒量が増加するほど主食と副食をとる者が減少する傾向があり、特に5合以上の飲酒者は「つき出し」だけになりやすい。

4.6. 飲酒開始年齢

飲酒開始年齢を表6、図1に示す。これをみると、全体の64%は20才未満で飲酒を始め
ており、18才、20才に飲酒開始のピークがみられる。年齢別では若年ほど18才で飲酒を始
めた者の占める割合が多く、40才以上の者ではその割合が小さい。技術系職員は20才未満
で飲み始めた者が多く、婚姻関係では未婚者の飲酒開始年齢が早くなる傾向にある。中卒
者は18才で飲酒を開始する割合が多く、大卒者には少ない。飲酒頻度でみると、「毎日飲
む者」は飲酒開始年齢が遅い傾向を示すが、「毎日飲む者」が40才以上の者が多いため
であろう。

表6 飲酒開始年齢

		中央値	累 計 %	
			～ 18 才	～ 20 才
年 齢	20 ～ 29	17.5	73.0%	91.8%
	30 ～ 39	18.7	38.7	90.3
	40 ～	19.5	25.0	66.7
職 種	専門技術者	18.1	47.8%	73.9%
	技術系職員	17.5	52.7	92.7
	事務系職員	17.9	100.0	100.0
婚 姻	未 婚	17.4	79.3%	96.6
	既 婚	18.8	37.8	84.4
学 歴	中 卒	17.0	68.8%	81.3%
	高 卒	17.9	55.6	93.3
	大 卒	19.0	33.3	83.3
同 胞 順 位	長 子	18.0	50.0%	87.5%
	末 子	18.3	47.6	85.7
	中 間 子	17.8	55.8	88.4
趣 味	屋 内	18.0	50.0%	66.7%
	ス ポ ー ツ	17.9	54.8	100.0
	両 方	18.1	47.4	100.0
	な し	17.9	54.2	70.8
家 の 宗 教	仏 教	18.0	51.6%	88.7%
	そ の 他	17.0	63.7	72.7
	な し	18.0	66.7	83.3
自 分 の 宗 教	仏 教	17.9	53.6%	89.3%
	そ の 他	17.9	55.0	80.0
	な し	18.0	50.0	90.6
在 外 中 の 飲 酒 頻 度	ほとんど飲まない	17.8	57.1%	92.9%
	週1回以上飲む	17.6	63.9	91.7
	毎 日 の 飲 酒	19.2	33.3	77.8
計		17.9	52.7%	87.3%

図1. 飲酒開始年齢

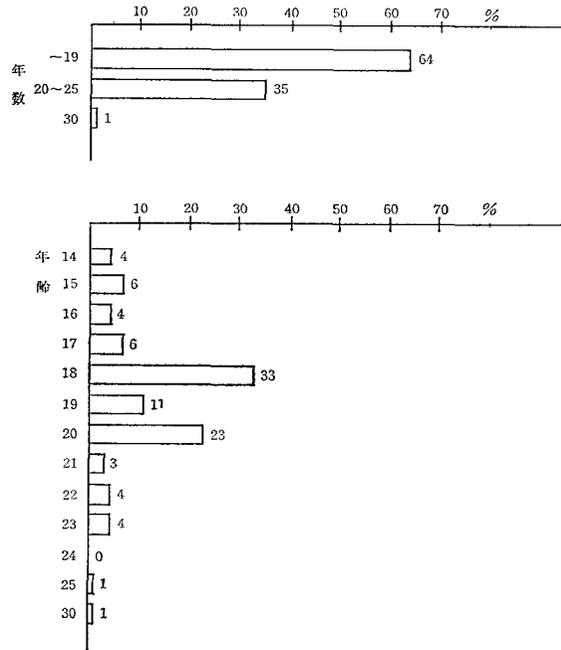


表7 飲酒の価値づけ

		a	b	c	d	e	f	g	h	N
年 齢	20 ~ 29	5.1%	20.5%	19.2%	25.6%	10.3%	2.6%	5.1%	7.8%	39
	30 ~ 39	12.0	19.1	25.9	18.3	7.0	0	0	3.4	29
	40 ~	4.8	39.6	7.2	43.2	14.4	2.4	0	0	12
職 種	専 門 技 術 者	8.9%	25.6%	12.4%	27.2%	9.6%	0 %	8.7%	4.3%	23
	技 術 系 職 員	7.3	23.6	22.7	26.7	10.3	2.7	0	5.5	55
	事 務 系 職 員	25.0	33.3	0	33.3	16.7	0	0	0	2
婚 姻	未 既 婚	3.4%	23.0%	19.0%	27.6%	11.5%	3.4%	6.9%	3.4%	29
	既 婚	12.2	25.1	23.3	26.6	8.9	1.1	0	4.4	45
学 歴	中 卒	3.1%	25.0%	18.8%	29.2%	14.6%	3.1%	6.3%	0 %	16
	高 卒	10.0	21.5	21.1	26.7	8.1	1.1	2.2	6.7	45
	大 卒	8.3	31.2	22.2	27.1	12.5	2.8	0	5.6	18
同 胞 順 位	長 子	6.3%	29.2%	15.7%	25.0%	14.6%	3.1%	0 %	6.3%	16
	末 子	4.8	22.2	28.6	28.6	7.9	2.4	0	0	21
	中 間 子	10.4	22.5	18.6	25.6	9.3	1.2	4.7	7.0	43
趣 味	屋 内	0 %	27.8%	16.7%	22.2%	16.7%	0 %	0 %	0 %	6
	ス ポ ツ	8.1	22.6	22.6	26.9	8.6	1.6	0	6.5	31
	両 方	7.9	26.3	26.3	26.3	10.5	2.6	0	5.3	19
	な し	10.4	22.2	14.6	26.4	9.7	2.1	8.3	4.2	24

家の宗教	仏教	7.3%	18.3%	21.8%	19.9%	6.5%	2.4%	1.6%	4.8%	62
	その他	18.1	27.3	18.1	21.2	12.1	0	0	9.1	11
	なし	0	11.1	16.7	33.3	16.7	0	16.7	0	6
自分の宗教	仏教	5.4%	22.6%	21.4%	27.4%	9.5%	1.8%	3.6%	7.1%	28
	その他	10.0	25.0	15.0	20.0	10.0	2.5	0	0	20
	なし	7.8	19.8	20.3	25.0	9.4	0	3.1	6.2	32
在外中の飲酒頻度	ほとんど飲まない	3.6%	11.9%	10.7%	19.0%	7.1%	0%	7.1%	14.3%	14
	週1回以上飲む	6.9	24.1	22.2	27.8	10.2	1.4	2.8	2.8	36
	毎日飲む	13.0	28.4	22.2	25.9	11.1	3.7	0	3.7	27
在外中の晩酌量	0	6.3%	16.7%	18.8%	25.0%	12.5%	0%	0%	12.5%	8
	0～1合	6.1	23.2	21.2	24.2	7.1	3.0	3.0	6.1	33
	1～2	8.3	23.6	22.9	26.4	8.3	0	4.2	4.2	24
	2～3	13.6	30.3	22.7	33.3	18.2	4.5	0	0	11
	3～4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4～5	12.5	25.0	0	25.0	16.7	0	0	0	4	
日本での宴会における飲酒量	～1合	0%	12.5%	18.8%	12.5%	12.5%	0%	0%	25.0%	8
	1～2	6.3	16.7	18.8	25.0	4.2	0	0	0	8
	2～3	11.1	27.1	14.8	28.4	4.9	5.6	7.4	0	27
	3～4	5.0	26.7	25.0	30.0	16.7	0	0	0	10
	4～5	6.3	25.0	28.1	25.0	12.5	0	0	6.3	16
5～	15.0	26.7	25.0	33.3	16.7	0	0	0	10	
計		8.1%	23.8%	20.6%	26.3%	10.0%	1.9%	2.5%	5.0%	80

註) 回答のないものは表よりはぶいている。

- a: 食物又はカロリー源として
- b: 睡眠用又は食欲増進剤等の薬用
- c: 行事, 儀式
- d: つきあい
- e: いらいら解消
- f: 男らしく見せる
- g: 判らない
- h: 価値なし

4.7. 飲酒の価値づけ

現地での飲酒についての価値づけは表7に示すごとくである。第1位は「つきあい」26%、第2位「薬として」24%、第3位「儀式行事に必要」21%で、第3位までの累計は71%を占めている。「イライラの解消」10%、「食物やカロリーとなる」8.1%となっている。

飲酒の価値づけを年齢別にみると、40才以上では「つきあい」と「薬となる」が多くなる傾向がある。飲酒頻度別では、「ほとんど飲まない者」に「価値を認めない」が多く、「判らない」ものも多い傾向がみられる。飲酒量では、1合未満の者に「価値なし」が13%もみられる。宴会での飲酒量は1合未満の者に「つきあい」が少なくなり、「価値なし」が圧倒的に多い。

4.8. 問題飲酒

表8は「慢性アルコール中毒につながる可能性がある飲み方¹¹⁾」の発生状態で、「問題飲酒の早期症状」と考えられるものである。表8のAは「問題飲酒のある者」（飲酒のために事故、争い、遅刻、欠勤がしばしばあったと回答した者）、Bは「比較的重大と考えられる状態」（昼休みに飲む、家に帰れない、宴会前に飲んでゆく、1人でも梯子酒をする、手休め手待ちに飲む、休日に朝から飲む、寝ながら一睡眠用ではない一飲む、二日酔いでも飲む、病気でも飲む、飲んだ折の事を思い出さない）がしばしばあったと答えた者、Cは「重大でない状態」（飲んで戸外で眠る、飲んで時間に遅れる、飲むと飲みすぎる、

表8 問題飲酒の早発症状

		A	B	C	N
年 齢	20 ~ 29	0.8%	3.8%	12.0%	39
	30 ~ 39	1.1	2.1	9.8	29
	40 ~	0	4.2	16.7	12
職 種	専 門 技 術 者	1.4%	4.8%	17.4%	23
	技 術 系 職 員	0.6	2.2	9.7	55
	事 務 系 職 員	0	20.0	16.7	2
婚 姻	未 婚	1.1%	4.5%	9.8%	29
	既 婚	0.9	2.7	11.9	45
学 歴	中 高 卒	2.1%	11.3%	13.5%	16
	大 卒	0.7	6.2	4.8	45
	大 卒	0	5.0	0	18
同 胞 順 位	長 子	4.1%	5.0%	16.7%	16
	末 子	0	3.3	8.7	21
	中 間 子	0	2.8	12.0	43
趣 味	屋 外	0 %	5.0%	22.2%	6
	ス ポ ツ	0	2.9	12.9	31
	両 方	1.8	1.6	5.3	19
	な し	1.4	5.0	13.9	24
家 の 宗 教	仏 教	1.1%	2.7%	10.5%	62
	そ の 他	0	7.3	19.6	11
	な し	0	1.7	11.1	6
自 分 の 宗 教	仏 教	1.1%	3.6%	9.5%	28
	そ の 他	1.7	4.5	14.2	20
	な し	0	2.5	13.0	32
在 外 中 の 飲 酒 頻 度	ほ と ん ど 飲 ま な い	0 %	1.4%	3.6%	14
	週 1 回 以 上 飲 む	0.9	2.2	11.6	36
	毎 日 飲 む	1.2	5.9	16.7	27

在外中の晩酌量	～ 1合	0 %	0.6%	8.1%	33
	1 ～ 2	0	2.1	11.8	24
	2 ～ 3	3.0	5.4	24.2	11
	3 ～ 4	0	0	0	0
	4 ～ 5	8.3	35.0	37.5	4
日本での宴会における飲酒量	～ 1合	0 %	0%	2.1%	8
	1 ～ 2	0	1.3	12.5	8
	2 ～ 3	0	1.1	8.6	27
	3 ～ 4	0	2.0	13.3	10
	4 ～ 5	2.1	5.0	16.7	16
	5 ～	3.3	13.0	21.7	10
計		1.0%	3.3%	12.0%	80

註1) 回答のないものは表よりはふいている。

註2) 各質問項目について「しばしばあった」+「時々あった」と答えた数の項目数×nに対する%がA%である。B%, C%はそれぞれ「しばしばあった」と答えた数の項目×nに対する%である。

註3) A: 問題飲酒がある状態

B: 比較的重大と思われる状態

C: 重大でない状態

酒がないと淋しいと感じる、量がふえてきたと思う、初めて飲んだ頃のおもい出が酒席の話題となる) がしばしばあったと答えたものである。

全体としてAは1.0%, Bは3.3%, Cは12%みられた。学歴別では中卒にA, Bが多い傾向がみられる, 同胞順位では長子にAが多い傾向がみられる。飲酒頻度では、「ほとんど飲まない者」にはAがみられず, B, Cも少ない。「毎日飲む者」にB, Cが多くなる傾向がある, 酒量別では量の増加とともにAが出現し, B, Cも増加する。宴会での飲酒量別では, 飲酒量別の場合と同じ傾向を示し, 5合以上飲む者に問題飲酒が著明に多くなる。

4.9. 飲酒習慣と人的環境

飲酒習慣と人的環境との関係を表9に示す。「近親者に酒の飲めない人がいる」ことと飲酒習慣(飲酒頻度, 飲酒量, 宴会での飲酒量)とは特に関連がみられない。「近親者に大酒飲みがいる」は, ほとんど飲まない者, 宴会での飲酒量が1合以下の者にはやや少ない。1合未満以外の飲酒頻度別, 宴会での飲酒量の項目別で「近親者に大酒飲みがいる」が多い。飲酒頻度との関係で, 「近親者に大酒飲みがいる」者は「ほとんど飲まない」者が少なく, 「近親者に大酒飲み」がいない場合には, 「ほとんど飲まない」者が多い($\alpha < 0.05$)。「友人に大酒飲みがいる」は飲酒習慣と関係なく「いる」が多いことを示している。特に, 飲酒頻度と友人に「大酒飲み」がいるかいないかとの関係では, 「大酒飲み」のいる場合には, 「ほとんど飲まない」者が少なく, 「毎日飲む」者の96%は友人に「大酒飲み」がいる。「近親者に大酒飲みがいない」者の方が, 晩酌量の平均値も, 宴会での

表9 飲酒習慣と人的環境

		近親者に酒の飲めない人がいる		近親者に大酒飲みがいる		友人に大酒飲みがいる		N
		はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	
在外中の飲酒頻度	ほとんど飲まない	35.7%	64.3%	42.9%	57.1%	64.3%	35.7%	14
	週1回以上飲む	50.0	44.4	75.0	19.4	86.1	11.1	36
	毎日飲む	48.1	51.9	66.7	33.3	96.3	3.7	27
在外中の晩酌量	0	37.5%	50.0%	50.0%	37.5%	62.5%	25.0%	8
	0 ~ 1合	43.3	55.6	71.1	27.8	86.5	15.5	33
	1 ~ 2	50.0	50.0	66.7	33.3	95.8	4.2	24
	2 ~ 3	36.4	63.6	72.7	27.3	90.9	9.1	11
	3 ~ 4	0	0	0	0	0	0	0
	4 ~ 5	100.0	0	50.0	25.0	75.0	25.0	4
	平均	1.4合	1.2合	1.3合	1.3合	1.4合	1.2合	80
	計	46.3%	51.2%	66.2%	30.0%	86.2%	12.5%	／
N	37	41	53	24	69	10	80	
日本での宴会における飲酒量	~ 1合	25.0%	75.0%	37.5%	62.5%	87.5%	12.5%	8
	1 ~ 2	62.5	37.5	87.5	12.5	100.0	0	8
	2 ~ 3	40.7	51.9	63.0	29.6	74.1	22.2	27
	3 ~ 4	40.0	60.0	90.0	10.0	100.0	0	10
	4 ~ 5	43.7	56.3	68.7	31.3	93.7	6.3	16
	5 ~	70.0	30.0	60.0	40.0	80.0	20.0	10
	平均	3.6合	3.0合	3.4合	3.2合	3.3合	3.2合	80
	計	46.3%	51.2%	86.2%	30.0%	86.2%	12.5%	／
N	37	41	53	24	69	10	80	

註) 回答のないものは表よりはぶいている。

酒量の平均値が大きくなっている。

5. 海外派遣の飲酒に及ぼす影響

以上の調査結果から海外派遣が飲酒にどのような影響を与えているか、本調査と同じアンケートを用いておこなったM電気産業¹²⁾およびN鋼管¹³⁾の調査結果と比較検討すれば次のようになる。

5.1. 本調査対象集団の特性

飲酒頻度、飲酒量、飲酒に対する価値づけは後に述べるので、その他の項目について、他の調査における集団と比較して本調査における集団の性格を検討すれば次のようになる。

M電器産業での調査した174名の年齢分布は20才代43%、30才33%、40才以上24%で、40才以上がやや多い。N鋼管、311名の調査対象の年齢分布は35才未満と35才以上がほぼ同数である。本調査の集団の年齢分布はN鋼管の集団に類似している。

酒と料理との関係はM電器の場合、酒本位55%、料理本位は僅か0.6%で本調査結果と類似しており、N鋼管の場合もよく類似している。

飲酒開始年齢はM電器の場合18才で36%、20才で73%が飲酒を開始しており、飲酒開始年齢の中央値は19.1才になっている。N鋼管の場合、35才未満の92%、35才以上の80%が20才までに飲酒を始めている。飲酒開始年齢は本調査の結果と類似している。

飲酒習慣と人的環境との関係を見ると、全国17地区の1377人についての飲酒調査では、「近親者に大酒飲みがいる」者37%であり、本調査結果に比べてその率は少なく、また、「大酒飲みの友人がいる」者45%に比べると本調査の対象集団は、その周囲に「酒好きの者」が多い集団であるといえることができる。それ故か、「近親者に大酒飲みがいない」者の平均晩酌量、宴会での飲酒量平均が「近親者に大酒飲みがいる」者より多い。

以上の事実より、本調査の対象集団は他の調査集団に比べて周囲に酒好きの者が多いということを除いて、大差のない集団であることがわかる。

5.2. 飲酒頻度

M電器産業は、「毎日飲む」14%「週1回以上飲む」48%、「ほとんど飲まない」46%、「飲まない」7%、「止めた」5%であって、「毎日飲む」者が少ない。N鋼管では、「毎日飲む」45%、「週1回以上飲む」27%、「ほとんど飲まない」24%、「飲まない」3%で「毎日飲む」者が非常に多い。本調査の飲酒頻度に海外派遣による影響は特に認められず、むしろ重工業従事者という共通の業種で類似している。ビルマとパキスタンとでは飲酒頻度に差が認められるのは、砂漠高原の田舎町と港町という町の性格に左右されるところが大きく、適当に遊びうる場所のあるパキスタン派遣者の飲酒頻度がひくい。

5.3. 飲酒量

M電器産業現業員の平均飲酒量は晩酌2.1合、「家で客と飲む」2.8合、「宴会で飲む」3.1合、「外で独りで飲む」2.1合となっている。N鋼管の平均晩酌量は2合弱となっている。これらは年齢分布や例数などにより一概に比較することは困難であるが、本調査の平均晩酌量の方が前二者より少ない。「問題飲酒の早期症状」のあるものは全体で16.3%¹³⁾いるが、「健全な飲酒量」と思われる3合未満¹⁴⁾の者は85%を占め、晩酌の折に酸化能力の限界といわれる5合以上飲む者がいないことは、海外派遣が飲酒量の抑制をもたらしたものと考えられる。あるいは、酒の法的規制、酒の入手の難易がある程度影響を与えているということも考えられる、ビルマ派遣者とパキスタン派遣者との平均飲酒量は同じで、いわゆる酒の強さは同じである。

5.4. 酒の価値では

M電器産業の調査によると、第1「位儀式行事」29%、第2位「菓」および「つきあい」が共に21%、「価値なし」、「判らない」とするものが9%である。N鋼管の場合は「価値なし」とするものが12%、「有害」3%となっている。本調査では第1～第3位までの傾向はあまり変わらないが、「無用」、「価値なし」とするものは両調査の中間を示す。本調査において、「つきあい」が第1位となっているのは人間関係を第1義的に考えられている傾向を示し、海外派遣で同僚と飲む機会が多いためであろうと考えられる。

6. おわりに

ビルマおよびパキスタン派遣者の現地における飲酒調査をおこない、海外滞在中の飲酒についての価値づけ、飲酒習慣について検討し次の結果をえた。

1) ビルマ、パキスタン派遣者は周囲に「酒好き」の者が多いこと以外の点で、他の集団と大きな差のない集団である。

2) 飲酒頻度は海外派遣の影響が認められず、日本で調査された重工業従事者の集団に類似している。ビルマ派遣者の飲酒頻度がパキスタン派遣者のそれよりも有意に多いのは、田舎町と港町との町の性格の差と解釈され、適当に遊ぶ所があるところでは飲酒頻度が小さい。

3) 平均飲酒量は日本での他の調査の場合より少なく、問題飲酒の早期症状のあるものが全体として16.3%いるにもかかわらず健全飲酒のものが85%を占めている。すなわち、海外派遣が飲酒量の抑制をもたらしたものと考えられる、また、酒の法的規制、酒の入手の難易がある程度影響を与えているものとも考えられる。

4) 飲酒の価値づけの第3位までの内容は他の調査集団と変わらないが、その順位が異なっている。海外派遣で「つきあい」が第1位となっており、人間関係を第一義的に考えられている傾向があり、同僚と飲む機会が多いことを示している。

5) 問題飲酒の早期症状として、すでに問題のあるものと、比較的重大と思われる状態のものを合わせて4.3%である。周囲に酒好きの者が多いということと関連があることが推定される。

文 献

- 1) Max Hayman：大原健士郎他訳，アルコール中毒，文光堂，東京，1968.
- 2) 額田繁：日本人とアルコール，からだの科学，30：50～54，1969.
- 3) 額田繁：飲酒習慣の疫学，診断と治療，58（8）：765～769，1971.
- 4) 額田繁：公衆衛生の課題としてのアルコール問題，日本公衆衛生，18（1）：1151～1154，1971.
- 5) 額田繁：飲酒と労働衛生，労働衛生，9（6）：8～13，1968.
- 6) 第6回日本アルコール医学会総会講演要旨，102～119，1971.
- 7) 大平昌彦他：各種労働者の飲酒の実態，産業医学，（11）：553～562，1969.

- 8) Willam. B. T. : Prevention of Alcoholism, How to Drink and Stay Sober, New York State Journal of Med., 64 (16) : 2041~2049, 1964.
- 9) Allan, F. W. Validation of a College Problem-Drinking Scale, Journal of Projective Techniques & Personality, Assessment, 31 (1) : 33~39, 1976.
- 10) 佐々木武史他：晩酌の定義について，アルコール研究，近刊.
- 11) 佐々木武史：産業精神衛生と飲酒，アルコール研究，4：92-102，1969.
- 12) 佐々木武史他・男子従業員の飲酒調査，松仁会誌，第9集：65~68，1970.
- 13) 小泉昂一郎：職場の飲酒問題，産業医学，13（1）：52~53，1971.
- 14) 額田繁：正常の飲酒限界について，第6回日本アルコール医学会総会講演要旨集：120~123，1971.